

1 学校教育目標
教育目標... ①社会人基礎力の育成 ②確かな学力の育成 ③キャリア教育の推進 ④部活動、学校行事等の充実 ⑤地域連携教育の推進
めざす生徒像... ①経済社会の持続的な発展を支える職業人として必要な資質・能力を備えた生徒
チャレンジ目標... ①就職100%内定、国公立大学20名以上合格 ②全商検定1級3種目以上取得者40名以上 ③新型コロナウイルス感染症対策(手洗い・換気の徹底)

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)
総務 他の方針と連携して学校行事の円滑な運営を図ってきたい。学校の確かな情報を迅速に発信できるようにしたい。
教務 新教育課程を完成させ、引き続き校内業務の効率化と可視化を行い、全教員の業務への理解を深める。
生徒指導 学校行事や各種委員会活動の活性化を図り、生徒の満足度を上げていきたい。身だしなみについては、就職面接での服装を基準として教職員の共通理解のもと指導を進めていきたい。
進路指導 昨年度進学は、国公立大学19名合格、就職については10年連続就職内定率100%を達成することができた。本年度は就職状況が厳しくなると予想されるが、3学年と協力し生徒の進路実現に努めていきたい。
保健体育 担任等と連携し、健康観察や治療動向を行うとともに、手洗い・消毒等の感染予防行動や基本的な生活習慣の確立を徹底し、生徒の自己健康管理能力を育てたい。
教育相談・人権教育 生徒が安心して学校生活を送れるよう適切な支援を全校体制で行いたい。また、自己肯定感を培い他者尊重の意識を育める環境づくりに努めたい。
図書 魅力的な図書館となるよう、生徒のニーズと学びを兼ね備えた選書をめざす。「朝の読書」も、充実した時間となるよう、工夫をしていきたい。
情報 校務システムを滞りなく運用するだけでなく、学習用端末等の新しい情報機器についての運用・保守等について検証を行いシステムに不具合が出た場合の迅速・適切な対応に努めていきたい。
1年 下年生としての心構えや礼儀等を普段の学校生活や授業を通して身につけさせたい。また、基本的な生活習慣の確立を図り時間厳守を意識させる中で、将来のビジネスのスペシャリストとしての資質を育成したい。
2年 中核の学年としての学習・行事・部活動等意欲的な取り組みを促したい。引き続き礼法・服装指導をおこない、落ち着いた学習環境を整えたい。また、進路実現に向けた視野を広げさせたい。
3年 コロナ禍の中で、社会の衰微・経済の疲弊などがある中でも、教職員、地域社会との関係をしっかりと構築し、生徒全員の進路実現をめざす。
商業 校内外での研修を充実させ、授業参観や研究授業などを継続して行う。地域社会に貢献できる人材を育成できるよう、地元企業と連携し、社会人基礎力、ビジネスマナー、実践力を育成していく。卒業までに全商検定1級3種目以上40名をめざす。
情報処理 クラス担任・教科担当者等との連携・協力を深め、資格取得や進路実現に向けて適切な指導が行えている。ビジネス情報やプログラミングに対する興味関心をしっかりと持たせ、より高度な資格取得を目標にする。
業務改善 「業務の見直し・効率化」、「勤務体制等の改善」、「学校支援人材の活用」の3つの柱をもとに、学校における働き方改革を着実に推進させる。

3 本年度重点を置いてめざす成果・特色、取り組むべき課題
(1) 社会に貢献できる人間力の育成 ~凡事徹底、部活動・学校行事等でのさらなる飛躍~ (2) 基礎学力の向上 (3) ビジネスにおける実践力の練度 (4) 保護者・地域との連携強化 (5) 安全安心で、快適な教育環境の整備

4 自己評価
評価項目: 重点目標, 具体的方策(教育活動), 評価基準, 資料, 評価, 重点目標の達成状況・分析, 総合評価, 学校関係者からの意見・要望等, 評価
総務 情報発信の充実: インターネットを使った情報発信, 学校案内による学校紹介... 76.7%
教務 学力向上: 基礎学力の充実に着目した授業づくり... 94.6%, 51.2%, 87.0%, 88.8%, 87.5%, 81.3%, 95.3%, 88.9%
生徒指導 学校行事の充実: 各委員長の選抜方法の見直し... 95.7%
生徒指導 生徒の規範意識の向上: 頭髪服装指導の実施... 98.3%
生徒指導 環境美化の推進: 清掃活動の推進... 80.4%
生徒指導 情報モラル教室の推進: 携帯安全教室の実施... 86.6%
進路指導 キャリア教育の充実: 生徒・保護者への進路情報提供... 94.2%
進路指導 就職内定率100%: 求人開拓... 100%
進路指導 国公立大学を中心とした進学指導: 個別課外指導... 80%以上合格
保健体育 健康意識を高め、自己の健康管理を実践する力の育成: 健康観察を徹底し... 86.6%
人権教育 教育相談の充実: 生活アンケートの実施... 86.6%
人権教育 人権教育の推進: クレベリン検査... 86.6%
いじめ防止の推進: いじめ調査... 98.3%

図書	読書習慣の育成	①朝の読書の継続 ②「万古館だより」による新着図書、推薦図書の案内	朝の読書時間で本に触れている。 図書館を利用している。	資料	読書を習慣化する良い時間となっている。 資料 定期的な利用層に加えて、授業において、書籍紹介・貸し出しの時間を定期的に確保することで、万古館が生徒にとって身近な場所となり、利用者も漸増している。	B	教科の学習とは異なる読書によって得られる効果は多々あり、社会人になっても必要な活動のひとつである。学校で過ごす時間中に高校生が読書をする時間を設けることは、人間教育において貴重な時間であると評価できる。	B	
情報	情報機器・校務システムの運用	①新システム（1人1台端末含む）への対応・運用	新しい情報機器や校務システムなどが整備されており使用しやすい環境である	教員	75.0%	1人1台端末やPC教室の不具合も落ち着きつつある。1人1台端末についてはこれからの運用方法を検討する必要がある。	B	社会においてはアフターコロナにおいてもオンラインによるリモート活動が定着する可能性が高いため、早期に実用できることを望む。	B
第1学年	基本的な生活習慣の確立	①学年情報の提供 ②保護者会による情報交換	学年やクラスの様子が家庭へよく伝わっている。 本校の学校生活に満足しており、本校に入学してよかったと思う。	保護者 生徒	76.4% 95.1%	多くの生徒が学校生活にも慣れ充実した生活を送ることができている。しかし心に悩みを抱え、学校に登校できない生徒も増えてきている。今後も他の教員との連携を密にして対応にあたっていく必要がある。	B	・コロナ禍による生活習慣の乱れが気になる。それ故、コロナ禍における対応策が求められるが、その方策が見つからないジレンマも垣間見える。 ・卒業後の進路に迷いはあっても、ほとんどの生徒が最終的に就職することを考えると、在学中に少しでも企業やその他の事業者のことを「知る機会」が増えることを望む。保護者を含め、企業や各産業界のことを一つでも多く知ることは就職においてメリットになる。考える。 ・生徒の個々の悩みに対応するのは非常に難しい場合もあると思います。関係機関との連携も大切だと思います。	B
第2学年	キャリア教育を充実し、進路についての目標を確立する	①学年情報の提供 ②保護者会による情報交換	学年やクラスの様子が家庭へよく伝わっている。 本校の学校生活に満足しており、本校に入学してよかったと思う。	保護者 生徒	76.4% 95.1%	総合的な探究の時間などを通して自分の進路について意識していると思われる。教員間の情報共有はできているが、人間関係などに悩む生徒への対応については課題がある。	B	・卒業後の進路に迷いはあっても、ほとんどの生徒が最終的に就職することを考えると、在学中に少しでも企業やその他の事業者のことを「知る機会」が増えることを望む。保護者を含め、企業や各産業界のことを一つでも多く知ることは就職においてメリットになる。考える。 ・生徒の個々の悩みに対応するのは非常に難しい場合もあると思います。関係機関との連携も大切だと思います。	A
第3学年	社会人基礎力を習得させ、自ら主体的に考え行動できる力を養成する。	①定期的な進路情報発信 ②保護者との密な連絡	学校やクラスの様子が家庭へよく伝わっている。 本校の学校生活に満足しており、本校に入学してよかったと思う。	保護者 生徒	76.4% 95.1%	就職に関しては、進路指導部に早くから動いてもらうことで、保護者にも多様な情報を提供でき、例年と変わりなく進路決定ができた。進学に関しては、もともと国立合格者数など、生徒減を感じさせないほど好成績であった。	A	・商業の優位性は、この簿記を含めた商業教科だと思っています。 ・商業科として生徒の将来に向け有効な取組みを継続し、成果を上げていることを評価する。 ・人数等は、前の年度と比較していただければよく分かると思う。 ・数字の面で前年度との比較がないので評価しにくいです。対前年比が欲しいです。	A
商業科	1学年…ビジネスの基礎とビジネスマナーの育成	簿記・ビジネス基礎・情報処理の基本3教科の知識・理解を定着させるために補習と課外を実施	日商簿記3級、全商情報処理2級、商業経済検定3級の取得	資料		1学年…授業担当者において、授業改善、検定課外を実施し、全商情報処理検定では93%の合格率を残した。 2学年…1学年同様、個別指導や検定課外を実施し、全商簿記検定では、1級に65名合格した。 3学年…全商検定1級3種目以上合格者数23名を達成した。総合実践ではビジネスマナー、チャレンジショップでは販売実習で実践的な体験活動を実施した。	B	・商業の優位性は、この簿記を含めた商業教科だと思っています。 ・商業科として生徒の将来に向け有効な取組みを継続し、成果を上げていることを評価する。 ・人数等は、前の年度と比較していただければよく分かると思う。 ・数字の面で前年度との比較がないので評価しにくいです。対前年比が欲しいです。	B
	2学年…上級資格取得への取組	全商検定1級取得のために補習・課外を実施	全商簿記実務検定1級、全商珠算・電卓実務検定1級、全商ビジネス文書実務検定1級の取得	資料			B		B
	3学年…社会人基礎力の育成、全商1級3種目の取組	「総合実践」でビジネスマナー教育を実践、商業経済検定1級の取得で全商検定1級3種目取得をめざす。	全商検定1級3種目以上合格者数30名	資料					
情報処理科	1学年…情報に関する基礎・基本を定着させる	ビジネス情報、プログラミングに関して興味を持たせ、自ら学ぶ意欲を育てる。	情報に関する基礎的な内容の理解と、全商情報処理検定2級（ビジネス情報部門、プログラミング部門）の取得。日商簿記3級の取得。	資料		1学年…実習を通してプログラミングに関する興味を持たせることができた。全商情報処理検定2級ビジネス情報部門87%、プログラミング部門73%の合格率を達成した。 2学年…全商簿記検定1級77%、全商情報処理検定1級ビジネス情報部門77%、プログラミング部門30%の合格率を達成した。全商検定1級3種目以上合格者が11名に達した。 3学年…全商検定1級3種目以上合格者が22名、日商簿記検定2級合格者5名、ITパスポート合格者8名を達成した。	B	・情報処理科として生徒の将来に向け有効な取組みを継続し、成果を上げていることを評価する。 ・プログラミング教育が小中高と新教育課程では入り込んだ。中学校の技術教育の研修会等の出前研修後があれは助かりました。 ・割合と人数で表記しているため、統一した方が分かりやすいと思います。	B
	2学年…意欲的に資格取得に取り組む	全商情報処理検定1級（ビジネス情報部門、プログラミング部門）の取得を目指す。	情報に関する応用的内容の理解と、全商情報処理検定1級（ビジネス情報部門、プログラミング部門）の取得。	資料			B		B
	3学年…情報に関する専門性を高める。	課題研究、選択科目を通して、高いレベルの知識・技術を習得する。	全商検定1級3種目以上合格者数20名 高度資格取得（日商簿記2級、ITパスポート）	資料					
特色ある教育活動の推進	実践的な取組		学校評価アンケート（生徒・保護者）の項目で「本校は特色ある教育活動を行っていると思う」が、 A：80%以上であった。 B：80%以上であった。 C：60%以上であった。 D：40%以上であった。	生徒 保護者	97.0% 89.7%	コロナ禍のため、地域に出でる活動が大変難しい状況であったが、商業研究部や課題研究「観光」の地域連携活動は、コロナが下火になった時期には大変精力的に実施できた。また、課題研究「チャレンジショップ」では、12月の販売活動は例年以上に活況を呈していた。	A	・実践的な部分がとても重要。資格もきることながら、チャレンジショップの自身をもっと充実させた方が良い。 ・外部との連携では、市内の高校でトップだと思つた。 ・「市立」を生かしてさらに積極的に活動してほしい。 ・チャレンジショップについては下商の特微的な取組みとして市民にも定着していると思われる。下商を特徴づける効果的な取組みとして、マンリ化するのではなく、今後も改善を重ね取り組んでいただきたい。学校運営において、他校にはない本校ならではの取組みは重要であるので、エネルギーは必要となるが、常に新たな取組みを発案する土壌づくりにも注力していただきたい。	A
	高度な学習の展開	①持続可能なコミュニティ・スクールの取組の展開 ②チャレンジショップの更なる発展 ③課題研究の取組の充実 ④高度資格取得に向けた取組の充実	日商簿記、ITパスポート等の高度資格取得合格者数の割合及び合格者数が前年度比 A：割合、数ともに増加した。 B：割合、数のいずれかが増加した。 C：変わらずであった。 D：割合、数ともに減少した。	資料		日商簿記5名合格（1級2名、2級3名）は前年の11名（1級0名、2級11名）に比べて減ったが、1級の合格者が2名出たことは、素晴らしい成果である。税理士試験（科目合格）は前年と同数であったが、こちらも素晴らしい成果であった。 ITパスポート10名合格は前年の25名に比べて大きく下がったが、データベーススペシャリストに合格したことは快挙であった。	B		B
業務改善	働き方改革に係る「当事者意識」の高揚	自分の「多忙化」の現状を客観的に把握する	学校評価アンケート（教員）の項目で「在校等時間記録表に基づきセルフコントロールを推進している」が、 A：80%以上であった。 B：80%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%以上であった。	教員	68.8%	業務時間記録表の提出率は昨年度同様100%であるが、超過勤務時間の削減は目標値に達していない。	B	・「働き方改革」のマニュアルに気を取られるばかりでなく、自分なりの「働き方改革」を実行していただきたい。 ・業務時間記録表の提出が超過勤務の削減に効果があるのか検証する必要はないか。形骸化しているのであれば他の方を講じることも検討したい。	B
	働き方改革に係る具体的行動	業務時間削減に向けて主体的に取り組む	学校評価アンケート（教員）の項目で、「長期休業中の「時差出勤」等の活用を推進し、業務時間短縮に努めている」が、 A：80%以上であった。 B：80%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%以上であった。	教員	68.8%	・時差出勤については取得手続きの簡素化等もあり、かなり定着してきた。最終退校時刻の遵守にはまだ課題がある。	B	・働き方改革が大きく前進していないのが気になる。部活動指導等もあり大変かと思いますが、「部活動の在り方」に関する総合的なガイドラインに沿った取組が改善ポイントとなるのではないのでしょうか。今後も引き続き取り組み強化が必要だと思います。	B

6 学校評価総括（取組の成果と課題）									
【総務】インターネット等による迅速、的確な情報発信は、概ねなされた。よりの確かな、また学校案内では新教育課程を的確に示すことができた。さらに迅速な情報の発信に心掛けたい。									
【教務】出席率に関してはコロナ禍や生徒個々の事情もあり、昨年度より全体的に低下した。来年度は学校全体で取り組み昨年度並みには戻していきたい。授業に取組等はよい傾向が続いている。現状に満足せずさらなる努力を続けていきたい。									
【生徒指導】学校行事については、生徒の満足度が高く、生徒会が主体となり機能的に運営できた。来年度については、コロナ禍での運営について工夫や改善をしていきたい。服装等の決まりを守ることにについては、生徒の自己評価は高いが、細かい部分に課題がみられるため、今後指導の徹底や生徒と教員間での共通認識を図っていく。清掃状況について、年々改善傾向がみられるが、掃除区域別ではできていないアンケート結果もある。更なる改善のため美化委員を活用した具体的な対策を実施したい。情報モラル教育については、生徒指導部だけでなく、情報部とも連携を図りながら、生徒の実態に即した教育を進めていきたい。									
【進路指導】就職に関しては11年連続内定率100%を達成することができた。次年度も事業所との情報交換を密に行い、就職先の確保に努めるとともに、地元で就職して地域に貢献できる人材の育成に努めたい。進学に関しては本年度からの取り組みであった全教員による小論文指導を精査・分析し、指導体制を確立していきたい。さらには3年間の継続したキャリア教育を推進し、社会的・職業的自立に向けた基礎的・汎用的能力の育成を図りたい。									
【保健体育】毎朝、WEBアプリにスマホ等から体温・体調を入力することで、自身の健康状態を確認し、振り返ることができた。しかし、特定の生徒が入力できていないこともあり、担任等と継続して指導しているところである。今後も引き続き、手洗い・消毒・換気等の感染症対策を徹底し、生徒の自己健康管理能力を育てたい。また、コロナ禍の影響か、今年度心身の不調を訴える生徒が多く、保健室利用も急増した。今後も継続して、担任や教育相談、SC等と連携し共通理解を促し、組織的に対応していきたい。									
【教育相談・人権教育】生活アンケートや学校安全アンケートの実施方法について試行錯誤を重ねていくことで、前年に比べてよりよい形で実施することができた。相談体制については、メールによる相談を開始したことで、相談窓口の選択肢を増やすことができた。しかし、コロナ下の影響か、心の問題を抱えた生徒が増えていることを鑑みると、より充実した校内の支援体制が望まれる。									
【図書】読書、学習の場としてふさわしい環境を維持することに注力した。また、必要な情報にたどり着けるように、コーナーの設置、配架の工夫、カンファレンスを機能的に行なった。1年生には、各種読書の誘いを意識した授業時の貸し出し、読書ノートの活用、新書版の図書の紹介ポップの作成、3年生には、小論文対策の資料の発信に重点を置き活動した。2年生においては、一部生徒が自主的に「読書ノートコンクール」に出品し、優良賞などの各種賞を受賞した。									
【情報】今年度は1人1台端末の導入を行った。県立学校と同じ形での導入ができなかったため、試行錯誤しながらの導入であったが、現在は不具合等も落ち着きつつある。端末をもっと積極的に活用してもらうために、次年度以降は端末の持ち帰りを検討していかなければならない。また、次年度新入生から観点別評価が始まるため、校務支援システムの改修作業も引き続き行う必要がある。									
【第1学年】学校生活を充実させて送っている生徒が非常に多く、ほとんどの生徒が基本的な生活習慣が確立している。上級生に上がっても乱れることなく、人の気持ちが分かる誰からも愛される生徒を他の教員とも協力して目指していきたい。一方で心のケアが必要な生徒に対してもしっかりとサポートをしていきたい。									
【第2学年】中校の学年として、学校生活や学校行事への取り組みは意欲的であると感じられる。最高学年に向けて、さらにさまざまな場面で中心になって活動できるように意識をさせたい。また、進路実現のために学習面での取り組みも促したい。教員間だけでなく、生徒・保護者ともしっかりと連携をとり、卒業を迎えたい。									
【第3学年】感染症の影響で進路に支障が生じると思っていたが、進路指導部の積極的な働きかけなどによって、就職に関しては、思っていた以上に順調に進んだように思う。進学に関しては、教員全体で小論文指導をやっていたなどとして、国公立に23名の合格を出し、まずまずの成果を挙げた。									
【商業】定期考査前の個別指導や検定対策課外など、各教員が担当クラスの生徒に対して十分な指導を行った。その結果、1年生の「簿記」で日商簿記検定3級に挑戦することができた。来年度に向けては、全商検定1級3種目以上合格者数30名以上、新教育課程へのスムーズな移行が課題である。									
【情報処理】情報処理科の担任や教科担当者との連携を図り、生徒一人ひとりの成長が結果として現れた。3年生の進路では、国公立大学6名や公務員合格2名も含めて多くの生徒の進路実現を果たした。来年度からは、新2・3年生に対する3年間の継続的な指導と新1年生に対する新教育課程に向けた指導を検討し、より良い学科編成を計画していきたい。今後も、多くの生徒が全商検定1級3種目以上合格や高度資格の取得ができるように指導を継続したい。									
【業務改善】引き続き校務の総点検を行い、更なる業務の精選・簡素化を推進する。また、今年度推進できた校務の電子化については、まだ紙ベースでの業務があるため、研修等を通じて、引き続き電子化による効率化を進めていく。学校業務支援員や部活動指導員等の学校支援人材の活用についても、市教委とも協議しながら検討していきたい。									
7 次年度への改善策									
【総務】的確な情報を、さらにタイムリーに、見やすく伝わりやすいように提供できるよう工夫改善していく必要がある。□									
【教務】引き続き、家庭学習を増やす工夫を考える。また、特に授業のクオリティのさらなる向上を目指していきたい。今年度出席率が1・2学年で大きく下がってしまった。授業により興味を持たせることが出席率の改善につながると考える。各教科でアイデアを出していきたい。									
【生徒指導】各行事後にアンケートを実施し、次の行事運営に生かせる体制を構築する。校則については、なぜこの規則があるのか、理解度を上げていきたい。環境美化への意識は上がってきているが、掃除区域において差がみられる。人数等の見直しを含めて改善していきたい。情報モラル教育については、情報部と連携を図りながら進めていきたい。									
【進路指導】就職に関しては地元企業との連携を図り、地域を愛する人材を地元へ送り出せるよう努めたい。進学に関しては生徒一人ひとりの進学先を見据えてフォローしていきたい。また、生徒や保護者に対して進路情報の提供も積極的に行きたい。									
【保健体育】健康観察については、担任等と連携し継続して徹底させるとともに、手洗い・消毒・換気等の感染症対策を引き続き徹底し、生徒の自己健康管理能力を育てたい。また、コロナ禍の影響が心身の不調を訴える生徒が急増したため、担任や教育相談、SC等と連携し共通理解を図り、組織的に対応していきたい。									
【教育相談・人権教育】生徒や保護者が安心して相談できる体制作りと、人権教育、心の教育、教職員研修のさらなる充実を図りたい。									
【図書】読書・学習・情報の各センターとしてのそれぞれの機能を、時代に合った形でより洗練させていくとともに、生徒が、自分と向き合ったり、思索にふけったり、また、何かの時に「心のオアシス」として気軽に立ち寄ってくれる、そんな万古館でありたい。									
【情報】1人1台端末を学習活動や行事でより積極的に活用できるよう、研修の実施や規定の整備等をしていかなければならない。									
【第1学年】学校の中心となる学年であることの自覚を持ち、行事・学習・部活動等に対して意欲的な取組を促したい。進路選択に向けて、より多くの情報が提供できるようにロングホームルームや総合的な探究の時間を活用したい。次年度も担任間の連携をしっかりととり、学年全体で生徒の対応にあたりたい。									
【第2学年】全員の進路希望が実現できるような学年を目指したい。そのためには、学習だけでなく、礼儀や出席率など今以上にレベルアップできるようにしていきたい。									
【第3学年】就職に関しては、コロナの影響が懸念されるため、地域社会等との綿密なコミュニケーションに努めていきたい。									
【商業】全商検定1級3種目以上合格者数の増加に向けて、縦横に連携を深め、継続した指導を実施する。新教育課程について、各コースの主担当と協力して実施する。									
【情報処理】資格取得や進路実現に向けて適切な指導が行えるよう、教員間の連携と生徒の意欲向上を図る。新教育課程、学科・コースについて検討していく。									
【業務改善】引き続き校務の総点検を行い、更なる業務の精選・簡素化を推進する。また、今年度、校務の電子化を推進してきたが、依然として紙ベースでの業務が多いため、電子化による効率化をより一層進めていく。学校業務支援員や部活動指導員等の学校支援人材の活用についても、市教委とも協議しながら検討していきたい。									